

## ゆめやさんのこと 森島いずみさん 児童書作家



『ずっと見つめていた』しらこ・絵(2020年2月 偕成社)

秋田県生まれ・福島県在住だった2011年に東日本大震災で被災、山梨県に移住。避難生活の中で書き上げた『パンプキン・ロード』で第20回小川未明文学賞大賞を受賞し、デビュー。

主な著作

「ニイハオ! ミンミン」(2006年 小川未明文学賞優秀賞)

『パンプキン・ロード』狩野富貴子・絵(2013年2月 学研教育出版)

『あの花火は消えない』丹地陽子・絵(2015年10月 偕成社)

「シロ」森シホカ・絵(日本児童文学者協会編『日本児童文学』小峰書店)

『まっすぐな地平線』はぎのたえこ・絵(2017年9月 偕成社)

編集者に連れられ、初めてゆめやさんの門をくぐってから10年ほど経つでしょうか。店主の長谷川さんとのおしゃべりが楽しすぎて、うかがうとつい長居をしてしまいます。児童書や絵本の世界をこえて話題は尽きず、長谷川ワールドにひきこまれてしまいます。

これから世界は生きづらくなり、子どもたちが自分らしく生き抜くのはたやすいことではないかもしれません。しかしながら、長谷川さんと話していると、この人がひとりひとりの子どものために選んだ本ならば、幹のしっかりした豊かな生き方を選びとる時に、子どもたちの助けになるだろうと感じられます。

ゲームやAIの世界では決して育たない感受性や世界観の獲得が、人生の広がりや幸福をもたらすものです。幼い時分から人の体温につつまれて絵本の世界を感得した子は、そのぬくもりをほかのひとにも与えていくことができます。

どんな絵本でもよいというわけではありませんから、ゆめやさんの選んだ本を、まずは親子で楽しんでみてはいかがでしょうか。

